

校 誌

躑 躑

創刊号



奈良県立登美ヶ丘高等学校

節 三 步





校歌

作詩 亀井教育
作曲 植野其美

一生駒と仰ぐ、の丘の

悠ゆる希望の学舎に

誠の心 求めゆく

空に行き交う風のように

仲間を招く 若人よ

あめわれら 登美ヶ丘高

二宮後 川の色澄みそ

高き理想の学舎に

勤める力 進みゆく

清き流れの水のようた

光輝く 若人よ

校訓
誠実 勤勉 剛健



あしを踏むるの学舎に
強き体で 歩みゆく
大地に生る草花のよう
健やかに育つ君人よ
あああれら 登美ヶ丘高

校名・校章の由来

本校は、西の京丘陵の西部(奈良市二名町)に位置し、日本書紀や古事記に記された「**鶏巴**」の「**登見**」に由来し、「**登美ヶ丘**」という地名で一般化されている。

このように、古くからの由緒ある地名であるとともに、地域の人々と密着している地名をここに校名とし、「**登美ヶ丘高校**」と名づけた。



校章の縁の輪華は、中世より茶道で伝承された輪花天目盆をデザイン化し、内側は学校周辺に自生する「コバノミツバツツジ」の三つ葉を表し、西の京、矢田、生駒丘陵を象徴し、知・徳・体の成長を願っている。中央の**高**は、灯ろうを形どり、その光が県下に輝き、新しい校風樹立と発展を念じている。



本館正面とソメイヨシノ



東屋とコバノミツハツツジ



中庭とシュンラン



クルメツツジと中庭



純白なユキヤナギ



校舎とモクレン



校舎全景とコバノミツバツツシ



三色のアジサイ



本館とキク



ハナミスギと校舎遠望



ヤマハゼの紅葉



運動場とベニウツギ



厳冬のサザンカ



真赤なツバキ

校舎スケッチ



校舎と全天候型コート



校門



生徒昇降口



通学路



体育館正面



本館



臨時駐輪場兼庭園



ドーム型の渡り廊下



東屋と天体ドーム



情報学習室



観覧スタンド



本館全景



和室



哲学の道



駐輪場

温故知新

奈良県知事
上田繁潔

揮毫 奈良県知事 上田繁潔

「温故知新」

「故（ふる）きを温（たず）ね新しきを知る」

先哲の学んだ英知、道理を再度学び、昔のことを研究して、新しい知識や見解を得る。真理を探究する学究の徒としては忘れてはならない真理である。

「論語より」

目次

落成式を迎えて	1
祝 辞	2
三か年の歩み	3
座 談 会	“この三年間を振り返って” 学校・育友会・生徒会 	10
本校の特色	30
部活動の歩み	32
本校に学んで	さよなら仮校舎、よろこびの声 	37
資 料	39
職員名簿	42
育友会役員名簿	44

表紙題字 学校長 亀井敦有

揮 毫 「温故知新」

奈良県知事 上田繁潔



落成式を迎えて

— 躑躅 創刊号に寄せて —

学校長 亀 井 敦 宥

ここに校誌「躑躅」が落成記念号として創刊する運びとなりましたことは限りない喜びであります。

さて、我国の教育界を取り巻く情勢が複雑かつ厳しいなかにあつて、本県の急激な人口増や進学率の上昇に伴って、本校開校のための設置準備事務所が昭和六十一年度に開設されました。翌年の昭和六十二年は、奈良県置県百年の年であり、本校は奇しくもこの年に開校し、二十一世紀教育を求めて躍動を開始する様になったことに深い感動を覚えざるを得なかつたわけでありま

す。

ところで、開校前の学校建設予定地は、松や櫟の雑木林で、雉や栗鼠が見られた静かな山里でありましたが、立地条件や地形から見て本当にこの地に仮称第十七高校が建設されるのだろうかと疑わざるを得ないような所でありました。そんな中にあつて、情報化・国際化の時代に対応するための能力と資質を持った生徒の育成をめざした学校像を求めながら、教育目標や特色、さらに校章、教育課程等を決定し、仮校舎ではあつたが雄々しく開校する運びとなつたわけであります。

開校より三年、春日を望むこの学研都市近郊の地に、すばらしく近代的は施設、設備を完備して頂き、その変容に思いを致し感無量の思いで一杯であります。

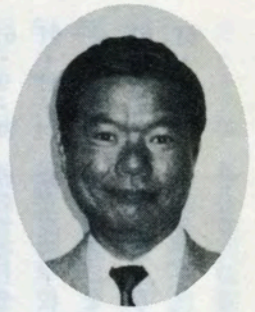
幸いにも、教職経験が豊富で、学校創造の意欲に燃えた教職員が揃い「誠実・勤勉・剛健」の校訓を旨として「素晴らしい学校を創っていかう」と共通理解を深め、本校の特色である情報処理や観察実験等の体験学習を重視した個別学習システムの推進化に向つて、幸先の良いスタートを切ることができました。

これは一重に、県当局はじめ県教育委員会のご尽力と地元のご理解ご協力、更に、工事に当って頂いた方々のご苦勞の賜ものと感謝し、厚く御礼を申し上げる次第であります。

今後は、校章にデザイン化しましたコパノミツパツツジの咲くこの登美の丘で、職員、生徒、保護者が力を合せ、良き社会人としての生き方と、个性的かつ人間性豊かな人格の育成をめざして、一步一步力強く踏みしめ、良き伝統と校風樹立のために努力を重ねて参りたいと思つております。

最後に、この落成式を三年目の節として、今まで歩んできた本校の概要を校誌「躑躅」にまとめ、明日への飛躍のための足がかりとしたいと考えております。

おわりに、本誌が益々充実し、登美ヶ丘高校の限らない発展を祈念して巻頭のことばといたします。



祝辞

育友会長 中 林 時 彦

初夏の風が爽やかに感じられる六月の良き日登美ヶ丘高等学校の落成式をめでたく迎えることができましたことは、会員一同心から感激致しているところで。昭和六十二年二月の第一期工事着工以来二カ年にわたりご苦労になりました県ご当局をはじめ、何かとご協力頂きました地元の皆様ならびに工事担当の皆様へ感謝致しますとともに、登美ヶ丘高等学校の発展のため今後とも一層のお力添え下さいますようお願い申し上げます。

開校後の一、二学期は、元教員養成所の仮校舎での不如意の生活を余儀なくされたわけですが、一期生のみなさんは既設各校に一歩もひけをとることなく学習に、部活動に存分の活躍をしてくれました。

本校は高度な学術、研究の拠点として開発が進められている関西化学術研究学園都市に隣接して教育環境としては抜群の位置にあります。生徒の皆さんには、恵まれた教育環境と、この立派な施設・設備を十分に活用して益々勉学に励まれ、限らない未来社会に対応して行ける個性豊かな人間性の育成と、目標に向かって進んで自己啓発に取り組み、創造的に行動出来るとともに、国際化時代といわれる今日、相手の立場に立ったものの考え方ができる国際性を身につけ、国際社会の中で信頼と尊敬を受ける日本人として逞しい実践力をしっかり身につけて頂きたいと思えます。

我が国は高度経済成長により、経済は飛躍的な発展を遂げ、その結果ものの豊かさを招来したもののその反面心の貧しさを残したことが反省されています。今後は社会的な活動に参画し、自分も他人も幸せに生きようとする社会的態度を養い、明るく住みよい社会の建設に努力をお願いしたいと思います。

最後に育友会発展のため何かとご協力頂きましたことに感謝致しますとともに今後ともなご一層のご指導とご支援をお願い申し上げます。本校校誌「躑躅」の内容が益々充実しますことを念願する次第であります。

- 62・4・10 奈良県立登美ヶ丘高等学校開校式並びに第一回入学式を奈良県立短期大学で挙行
- 62・4・11 第一期生二七〇名(男一六〇名、女一一〇名)一年オリエンテーション
- 62・4・13 課題テスト
- 62・4・14 本校舎建設地で現地研修
- 62・4・24 新入生宿泊研修(一泊二日)於・青少年野外活動センター
- 62・4・27 APタイム開始
- 62・5・1 面接週間(八日間)
- 62・5・14 本校舎建築にともなう安全祈願(地鎮祭)
- 62・5・22 生徒会リーダー研修会(一泊二日)於・少年自然の家
- 62・5・26 育友会創立総会
- (会長) 中林時彦、(副会長) 広瀬一允、宮村和子、
(書記) 満恵川佐代子、安田明美、(会計) 安部堯子、
(監査委員) 鈴木進、福井紀美子
- 62・6・1 スタディホールアワー開始
- 62・6・17 通学路清掃奉仕活動(船橋通り周辺)
- 62・6・22 校歌制定、発表会。(作詞) 校長・亀井敦育、(作曲) 講師・植野真奈美
- 62・6・24 生徒会立会演説会、生徒会役員選出
(会長) 岩井田武司、(副会長) 細川宏一、栗本大、
(書記) 白木友美、江藤真美子、(会計) 鬼武弘征、
中林千夏子
- 62・7・6 二期工事着工
- 62・7・9 「登美ヶ丘高通信」第1号発刊
- 62・7・10 避難訓練
- 62・7・13 第一回生徒会総会
- 62・7・16 保護者懇談会(三日間)
- 62・7・20 第一学期終業式
- 62・7・24 地区別懇談会(四日間)於・四会場
- 62・7・28 学習宿泊カウンスリング・一年(一泊二日)於・海住山寺ユースホステル(京都府)
- 62・8・5 本校舎建設地の見学会(生徒・教職員)
- 62・8・21 同和現地研修(於・河合町)
- 62・8・25 基礎講座開始
- 62・9・1 第二学期始業式
- 62・9・7 課題テスト
- 62・9・15 第一回文化祭(二日間)

- 62・9・16 弁論大会、音楽発表会
- 62・9・17 第一回体育大会（於・鴻ノ池陸上競技場）
- 62・9・24 進路説明会（講師 大阪予備校 浜田正勝氏）
- 62・10・6 個人面談（九日間）
- 62・10・9 秋季校外学習・一年（彦根・琵琶湖、嵐山方面）
- 62・10・27 母校訪問（出身中学校）
- 62・11・2 移転準備実行委員会
- 62・11・7 仮校舎さようなら球技大会
- 62・11・9 類型選択最終調査
- 62・11・14 第一回創立記念日
- 62・11・18 同和教育講演会（講師 県教育センター 竹村 隆 氏）
- 62・12・7 第一期工事竣工
- 62・12・8 仮校舎さようなら盆栽教室
（講師・校長 亀井敦有、主催・育友会母親部会）
- 62・12・17 「登美ヶ丘高通信」第2号発刊
- 62・12・24 第二学期終業式・仮校舎お別れ会
- 62・12・25 仮校舎から本校舎へ移転
- 63・1・8 第三学期始業式
- 63・1・9 グラウンド開き校内球技大会（バレーボール・バス

- 63・1・16 ケットボール）
- 63・1・16 第一回地元中学校招待サッカー大会（四校参加）
- 63・1・20 課題テスト
- 63・1・22 第一回新春百人一首かるた大会
- 63・2・8 学校説明会（中学校職員、並びに中学生、二日間）
- 63・2・8 天体ドーム設置
- 63・2・19 学校保健委員会
- 63・2・22 パソコン実習・一年（三日間）於・情報処理教育センター
- 63・3・9 「登美ヶ丘高通信」第3号発刊
- 63・3・15 第二回入学者選抜学力検査。受検者三六二名
- 63・3・18 合格発表・合格者二七〇名
- 63・3・19 第三学期終業式
- タイムカプセルを前庭に埋設。平成十年十一月十五日開封
- 合格者説明会
- 63・4・1 第二年度着任職員十四名、転出職員二名
- 着任職員、（教頭）岡村隆司、（教諭）大井幸子、岡本雅至、柿内くみこ、神 譲、谷 幸三、中森恭子、原田 裕、藤原 眞、松田真三、安井孝至、安

- 川康男、(講師)吹角明男、三木一世、転出職員(教頭)田中喜久、(教諭)浦崎美代子
 63・4・8 離任式・第一学期始業式
- 63・4・11 第二回入学式
 63・4・12 第二期生二七〇名(男一四一名、女二二九名)
 対面式・一年オリエンテーション
- 63・4・13 課題テスト
 63・4・22 新入生宿泊研修(二泊二日)於・青少年野外活動センター
 春季校外学習・二年(春日奥山方面)
 63・4・28 通学路清掃奉仕活動(松陽台二丁目周辺)
- 63・5・2 スポーツテスト
 63・5・6 個人面談(八日間)
 63・5・9 実力養成講座開始
 63・5・10 スタディホールアワー開始
 第二期工事竣工
- 63・5・13 生徒会リーダー研修会(一泊二日)於・少年自然の家
 63・5・17 APタイム開始
 63・5・23 第二回育友会総会
 新たに(副会長)高橋倫子、(会計)林 寿子、(監査委員)藤本佐喜子
- 63・6・3 校外学習・一、二年(なら・シルクロード博見学)
 63・6・15 生徒会立会演説会、生徒会役員選出
 (会長)林 研志、(副会長)田村隆昭、西尾直哉、
 (書記)榎本美穂、長通素美、(会計)仲田明紀、
 橋本大樹
- 63・6・29 生徒会総会
 63・7・1 「登美ヶ丘高通信」第4号発刊
 63・7・2 開放講座開始、健康管理・自然観察講座(年八回)
 63・7・12 避難訓練
 校旗披露
- 63・7・16 保護者懇談会(三日間)
 63・7・20 第一学期終業式
 63・7・25 第二回学習宿泊カウンセリング・一年(二泊二日)
 於・海住山寺ユースホステル(京都府)
- 63・7・27 地区別懇談会(三日間)於・三会場
 63・7・29 第三期工事着工
 63・8・19 同和現地研修(於・大和郡山市)
 63・8・26 基礎講座開始
 63・9・1 第二学期始業式

- | | | | |
|----------|-----------------------------------|--------|-----------------------------|
| 63・9・5 | 課題テスト | 元・1・17 | 課題テスト |
| 63・9・10 | 第二回文化祭(登美高祭、二日間) | 元・1・18 | 第二回新春百人一首かるた大会 |
| 63・10・3 | 修学旅行・二年(信州、北陸方面・三泊四日) | 元・1・21 | 学校説明会(中学生等) |
| 63・10・5 | 秋季校外学習・一年(京都・信楽方面) | 元・2・7 | パソコン実習・一年(三日間) 於・情報処理教育センター |
| 63・10・12 | 類型選択・進路説明会 | | |
| | 生活体験発表会 | 元・2・13 | 通学路(坂道)の愛称を「トータスロード」と決定 |
| 63・10・24 | 教職員による通学路清掃奉仕活動(松陽台二丁目周辺) | 元・2・15 | 学校保健委員会 |
| 63・10・25 | 母校訪問(出身中学校) | 元・2・19 | 第二回地元中学校招待サッカー大会(四校参加) |
| 63・10・31 | 第二回体育大会(於・鴻ノ池陸上競技場) | 元・2・28 | 第三期工事竣工 |
| 63・11・1 | 個人面談(十日間) | 元・3・6 | 通学路清掃奉仕活動(松陽台二丁目周辺) |
| 63・11・14 | 第二回創立記念日 | 元・3・10 | 「登美ヶ丘高通信」第6号発刊 |
| 63・11・20 | 類型選択最終調査 | 元・3・14 | 第三回入学者選抜学力検査 受検者三〇一名 |
| 63・11・25 | 同和教育講演会(講師 解放同盟西穴闇支部・書記 次長 李 敏明氏) | 元・3・17 | 合格発表・合格者二七〇名 |
| | | 元・3・20 | 第三学期終業式 |
| 63・12・1 | 「登美ヶ丘高通信」第5号発刊 | | 合格者説明会 |
| 63・12・13 | 通学路清掃奉仕活動(松陽台二丁目周辺) | 元・4・1 | スキー教室・希望者(於・野沢温泉村・四泊五日) |
| 63・12・17 | 避難訓練 | | 第三年度着任職員十五名、転出職員一名 |
| 63・12・21 | 保護者懇談会(三日間) | | 着任職員(教諭) 井階正治、今西 章、北野貴之、 |
| 63・12・24 | 第二学期終業式 | | 黒田純弘、杉本憲則、長岡義樹、古田生美子、前川 |
| 平成元・1・9 | 第三学期始業式 | | 佳以、松岡孝子、宮本靖彦、(講師) 家村哲也、佐 |

藤 由、河合知子、(臨時実習助手) 林 成美、(臨

時事務職員) 橋本美登志

転出職員(講師) 吹角明男

元・4・8 離任式、第一期始業式

元・4・11 第三回入学式

第三期生二七〇名(男一四八名、女一二二名)

元・4・12 対面式・一年オリエンテーション

元・4・13 課題テスト

元・4・21 新入生宿泊研修(一泊二日)於・青少年野外活動セ

ンター

春季校外学習・二年(秋篠寺・新薬師寺・平城宮跡

方面)・三年(明日香、信貴山方面)

元・4・24 スポーツテスト

元・4・28 新入生歓迎文化発表会

元・5・2 個人面談(十日間)

元・5・8 実力養成講座開始

元・5・9 校内実力テスト(二日間)

元・6・5 落成式挙行



中学校訪問 生徒作品



グランド敷地



最新鋭・巨大ブルドーザー



造成工事



第1期工事



本館基礎工事



第3期工事



第2期工事

校舎建設予定地 (S61.4)

校舎建設地

校門付近

座談会 この三年間を振り返って—

出席者(敬称略)

司会	阪本	中嶋	阪上	堀内	小南	中野	城ノ内	岡村	亀井	出席者(敬称略)
	淳	哲	哲	秀	昌	和	三	隆	敦	
	行	也	也	規	紀	昭	郎	司	有	(学校長)
	維									(教頭)
	(編集委員)	(編集委員)	(編集委員)	(編集委員)	(編集委員)	(編集委員)	(事務長)			

第十七高校の開設にあたって

開設から工事まで

司会 みなさま方、本日はご多忙中、お集りいただき有難うございます。

本日は、落成式を迎えるに当たりまして建設当初から、学校運営・経営にたずさわっていただいた先生方にお集りいただき、登美ヶ丘高等学校落成までの『三か年を振り返って』ご苦労談や思い出話をお聞かせ願えればと考へ、座談会を持たせていただきました。どうかよろしく願いたします。

それでは校長先生の方から挨拶をお願いします。



校長 お忙しい中ご苦労さまです。本校が開校以来早くも二年を経過したわけでありましてここに本校がうぶ声をあげる前から、今日に至るまでの苦しかったこと、楽しかったことを回顧しながら赤裸々に話していただきたいと思ひます。今日参加頂いた先生方は、開校時に大変ご苦労をかけた先生方ばかりです。そしてこの座談会は、今後の本校発展と充実のための足がかりになると思ひますのでよろしくお願ひします。

建設構想の決定まで

司会 まず、本校建設の経過・決定までの様子を校長先生の方からよろしくお願ひします。
校長 本校は仮称第十七高校として出発したわけですが、ご存知のとおり昭和四十九年から奈良県下の人口が急増するとともに高校進学が高まってきたわけでありまして。

特に、奈良県の北和地域が集中的に人口増となり、高校生の急増対策として、昭和六十年十二月二日に県議会で、県の北和地域に六クラス規模の普通科高校を、昭和六十二年に開校することが承認されたわけでありまして。

建設場所決定

司会 本校がこの場所に決定したその経緯からお聞かせください。

校長 私が奈良県高等学校等設置準備事務局という辞令を拝命し、四月二十日頃に初めての会議があり、新設校の設置場所、開校年月日、課程、募集人員、施設等の確認会で初めてその概要を聞かされました。その時は奈良市二名町、生駒市鹿ノ畑に建設されるというだけで、その場所はさだかではなかったわけでありまして。もちろん、あの辺だろうと想像するだけでしたし、現場は松や樺の雑木の凹凸の激しい場所であり、こんな所に学校が出来るのかと不安でいっぱいでしたが、奈良県民の期待に応えるべく大きな理想を求めて開校の準備に取りかかりました。

開校にむかって

教育方針・特色

司会 それでは続いて、教育方針・特色などについてお願ひします。

校長 地域性と、日本の教育の現状さらに二

十一世紀の教育を考え、国際化・情報化社会に対応できる資質をもった豊かな人間育成のできる学校を創ることを第一のねらいと考えたわけでありまして。特色としては英語・数学・理科等の学習に情報処理や実験観察等の体験学習と個別学習システムを採り入れるという学校創りの方向を七月に決められたわけでありまして。

校章・教育課程



校章

司会 校章・教育課程についてはどうでしょうか。

校長 校章は、五月から原案作りをしました。そして二十六通りの原図とその解説を考えました。内容では地域性を象徴できるもの。また、県下に類似型のない丸型を考えたいわけがあります。勿論、近畿地区の高校の校章一覧表を集めたわけでありまして。特に本校の周辺に自生しているシュンラン、キキョウ、そしてコバノミツバツジ等の植物や史跡的なものを素材にしながら、二十六通りのものを作り、その中から九月三十日に決定されたわけでした。

司会 大変苦勞されたのですね。続いて教育課程についてはどうでしょうか。

校長 校章が決まってから十一月に入りまして、全国の特徴ある学校の教育課程を十分調査し、色々と検討を加え、昭和六十一年、十一月一日に本校独特な、そして無理のない教育課程表が決まりました。

制服・靴・鞆 決まる

司会 最近の制服はブレザー・スーツがほとんどですが、どのようにして決定されましたか。

校長 生徒にとって関心の高いのは制服ですので、中学生の希望、県下高校のデザイン、色、生地、大阪・京都の様子等を総合しながら、高校生にふさわしいデザイン、華美でない色柄、強度、値段、類似品、さらにネクタイとの調和等を考えて、十一月十四日に決定しました。丁度、その時に校章、教育課程、制服、靴、鞆等、また校医さんも決まりました。これで新しい学校が開校するための重要なものがほぼ決まったので、その日を創立記念日と決めました。



制服



候補にあがった校章

仮校舎、校名決定

司会 そのような頃、そんな状態では、開校

にはとうてい間に合いませんね。

校長 そうです。十二月二十四日に正式に旧小学校教員養成所を仮校舎とすることが決まりました。そして、見込みとして、二学期間と決まりました。

待望の校名決定

司会 それでは校名の方はいつごろ決定されたのですか。

校長 遅くなっていましたが、共に開校予定の二階堂養護学校との関連で一緒に決定しようということ、校名は六十一年の十二月十二日に奈良県立高等学校等設置条例の一部を改訂する条例という条例が議決されて、今の奈良県立登美ヶ丘高等学校と決定しました。

四つの校名候補

司会 校名はどのような経緯で決定されたのですか。

校長 命名の条件として、色々あったわけですが、私は第一案として、奈良西、第二案、登美ヶ丘、第三案、二名、第四案、鹿の台、色々検討の結果、第二案の登美ヶ丘高校が決定されました。決定されたのは、十二月十二

日で、その日までは仮称第十七高等学校であつたわけでありませう。

生徒募集

司会 では次に生徒募集について、校長先生お願いいたします。

校長 私は辞令をいただいた当初から地元の中学校を中心に東奔西走の状態でした。特に奈良市・生駒市の中学校の希望や意見を聞きに回りました。

中学校へ参つたのは確か四月二十五日からでした。その時は学校建設予定地は影も姿もない雑木林の山林でした。

司会 そんな早くから中学校を回られたのですね。

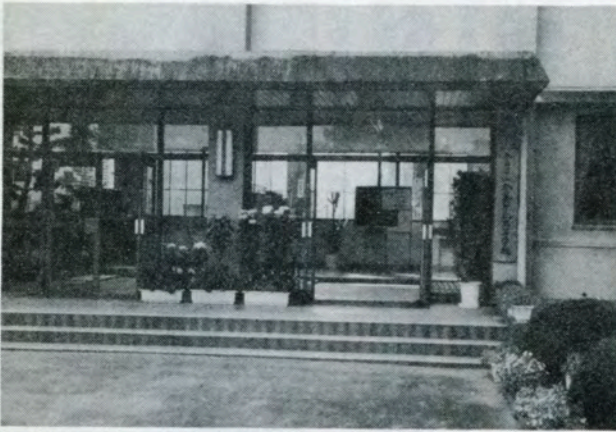
校長 そうです。地元の方々や、中学校から期待される学校を作りたいという願いで一杯でした。また工事が着工された九月から十一月頃にかけてさかんに県下の各中学校、ならびに市町村の教育委員会に学校案内を持って回りました。中学校の先生方や、保護者説明会の時に保護者の方を対象に話をしたり、三年生担任に協力を依頼したり、郡市別の進路部会で説明をしたり、相当回を重ねました。奈良市、生駒市で一校平均八、九回は行きま

した。

司会 そんなに何回も行かれたのですか。

校長 そうです。何回も行かせていただきました。しかし、説明のときに困ったのは「本当に学校ができるのか」と疑問の声を聞かされたときです。事実その時は造成工事すらさ

奈良県立登美ヶ丘高等学校



仮校舎正面玄関

れていなかったからです。「どの辺ですか」とよく聞かれましたが、私は「登美ヶ丘小学校の北側です」と言っているものの私自身も不安でした。(笑)

校長 中学校の先生方や、中学校三年の保護者の皆さん方の多くは、本校の特色や教育課程に、さらに、施設設備に、かなり大きな期待と希望をもっておられた様に思いました。

仮校舎で願書受付

司会 仮校舎での願書受付の様子を話していただきます。

校長 いよいよ募集の時期を迎え、定員二七〇名に達するかと心配しました。開店と同時に休業にならないかと。相当説明には行ったつもりでしたが、悩みました。悩んでも打ち明ける人は誰も居ませんでした。一名でも定員をオーバーしてくれるように祈っていました。

願書受付の準備、募集の書類作成、仮校舎の案内地図等の作成と送付等全部一人でしたので県教委より三名の先生が応援に来て頂きました。

司会 それは大変でしたね。

校長 そうです。もう大変でした。しかし、

結局、志願者は四〇九名で安心しました。そして取り下げた数は一一七名ありました。これは県下で最高でした。こんなに取り下げがないと思っていたので、用紙が不足し、受付当日は用紙の印刷の時間もなく、取り下げに來られた中学の先生方に印刷してもらった状態でした。(笑)

しかし、私にとって大変うれいことでした。

司会 本校の設置準備事務補助ということで三名の先生方と私が発令されたわけですが、その時のことをお願いします。

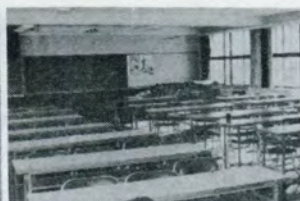
校長 私にとってこれは嬉しい助け舟でした。三月九日、やる気のある四人のサムライとして、中野先生、阪本先生、小南先生、中嶋先生が仮校舎のあのカビ臭い事務室へ来て頂きましたね。

「私は亀井です。よろしく」と紹介させてもらった時は、私にとって感激の日でした。たしか、願書再提出の日でしたね。その時から私はこの先生方にお任せいたしました。

司会 その時の思い出を中野先生どうぞ。
中野 私はいきなり金澤校長より辞令を受けて着任しましたが、何一つないなかでの仕事でしたので、かなり戸惑いました。
司会 小南先生はどうですか。

小南 突然のことでびっくりしました。来てみましたが、登美ヶ丘高校として使えるものは何もなく、教育センターや、短大の事務所を何回となく往復して借り歩きましたね。

司会 続いて中嶋先生どうぞ。
中嶋 事務用品、事務材料等も全くなく、北和女子高校へパソコンを借りに行ったりして不自由な出発と忙しい毎日でした。毎晩、毎晩遅くなりました。



全校生徒集合所



仮校舎廊下



準備当時の職員

校長 事実上の徹夜に近い状態で頑張ってきましたね。お盆や湯呑みまで家から持参し

てもらいましたね。お茶の葉、ひも一本もなかったのですものね。

中野 発令を受けて学校用地がどこかと思っ
て行ってみたのですが、どこにあるのか全く
誰も知りませんでした。それもそのはず造成
が始まったばかりだったんですものね。

県立短大で入学検査

司会 入学検査・合格発表・合格説明会についてはどうだったのですか。

小南 入学検査は県立短大で、採点は教育センターで行いました。必要な物品は勿論のことストーブや茶器、チョークまで、仮校舎から運びました。説明会の椅子並べも五人でやりましたね。四月に入り、新しい先生方に来ていただいた時はほっとしました。毎晩遅くなりました。

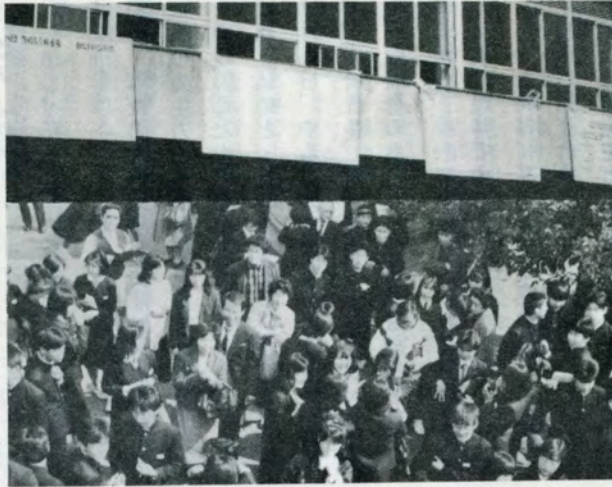
中野 毎日疲れて、ある日車をサードで家まで帰ったこともあります。

中嶋 放送係をしたのですが、マイクの調子が悪く、困りました。

校長 設備等が不十分で、すべて借物でしたので苦労しました。入学検査の前日にマイクの声が舎外に流れていることを発見し、そのスピーカーの切り替えスイッチがなく、サー

カスの真似をして切り替えたのを覚えていま
す。

入学検査や採点は、県教育委員会や、教育
センター等の先生方の応援をえてスムーズに
終ることができました。



合格発表

事務補助の四名の先生方には、連日連夜遅
くまで頑張っていたいただき、深夜に帰ってもら
ったことも何度もありました。本当にご苦労
をかけました。

開校式・入学式

司会 続いて開校式・入学式と続くのですが、
校長先生、その時の思い出はいかがですか。
校長 そうですね、開校式は感激のひとつと
思いました。花山院親忠教育委員長先生の開校宣
言は一生忘れられることはできませんね。涙が
流れていましたよ。

開校宣言

県民の期待に心々奈良県立登美ヶ丘
高等学校がめてたく開校される
ことになりました
この学校が今後立派な校風と伝統
を築きあげ生徒を育てることを
祈念しつつここに開校を宣言い
たします

昭和六十二年四月十日

奈良県教育委員会
会長 眞谷 啓

式は短大の体育館で行ったのですが、初め
てということで赴任まもない先生方が生徒に

なったという想定で、入場から退場までの練
習を繰り返してやって頂きました。ああいう
ことはもう二度と出来ないと思います。

式当日はかなり多くの来賓の方々に来て頂
きました。式後、大変、厳粛ですばらしかつ
たとおほめの言葉を頂き、ほっとしました。

新入生（第一期生）一人一人と握手を交わ
しましたが、生徒の気迫が手を通して感じら
れました。あのぬくもりは今も忘れません。



学校長との堅い握手

司会 このように、すばらしい開校式、入学
式を挙げてきたわけですが、他の先生方の印

象はいかがでしたか。

堀内 知らない先生ばかりとの出会い。校長先生のファイトのある姿を見て、「頑張らねばと強く思いました。」

阪上 赴任するとすぐ、突然の司会で驚きました。

司会 入学式は大雨で困りましたね。傘立て等の準備が大変でした。三上先生のナレーションも印象的でした。

中野 放送がうまく入るか大変心配しました。
阪上 よくこんな旧式のものがあるなあと思いましたよ。

仮校舎の生活、部活動

司会 仮校舎時代は何かと不自由な生活でしたが。

校長 事務室・職員室作り、机・椅子何もない所からの出発でした。まず授業が出来るように教室作りから始め、六クラス分の教室の確保、芸術教室がなかったので、その工夫等色々苦労をおかけしました。

県教委の土家先生に書いてもらった校名の看板を赴任間もない全先生で掲げてもらった時は、ああここまで来たかと忘れられない嬉しい日でした。



感激の校名板掲示

司会 部活動の様子をお願いします。阪上先生。

阪上 野球部ははじめからよく練習していたと思います。あの狭い運動場でよくやれたものだと思います。そして夏の大会によく出たと思います。

事務長 ファウル等のボールが近所の家の屋根瓦を割り、弁償やらあやまりで難儀しました。

阪上 サッカー、陸上、硬式テニスは鴻ノ池

を借りて行って行っていました。しかし、練習時間は四時から五時までの一時間ぐらいでした。あの狭い運動場で各クラブが譲り合って練習していました。あの狭い体育館でもバスケットボールとバレーボールが、ステージでは柔道がやっていました。よくケガをしなかったことです。

事務長 運動場の整備とか、弓道練習場等の費用がかかりました。

司会 日常の授業等ではどうでしょうか。

校長 生徒には日常から学習の習慣をつけさせるということで、本校の特色のAPタイム、スタディホールアワー等、仮校舎時代から始めていただき、大変だったと思います。

施設・設備の不備のなかで生徒達もよくやっただと思います。特に教室は六クラスでしたが、黒板が三枚に分かれており使いにくかったと思います。

堀内 三枚に分かれており、単語等を書くのに苦労しました。

司会 四組でしたか、階段教室になっていました。窓は二重窓になっていました。今となっては懐かしいですね。

校長 仮校舎の設備等は不備・不足でも、教育内容は充実させるように願っていました。

日頃の教育活動・内容を保護者に日記風にお伝えしようと思い、学期毎に「登美ヶ丘高通信」という小冊子を出させていただきました。今ではもうすでに六回になりました。

小南 最近では「登美ヶ丘高通信」が楽しみですという声も聞かれます。

校長 冬休み前には休暇中のしおり「虹」を発行してくれましたね。

司会 そうです。夏・冬休み前に休みが計画的に過ごせるように、「虹」を発行してすでにNo.4となりました。

両方ともカットデザインは更谷先生にお世話になりました。



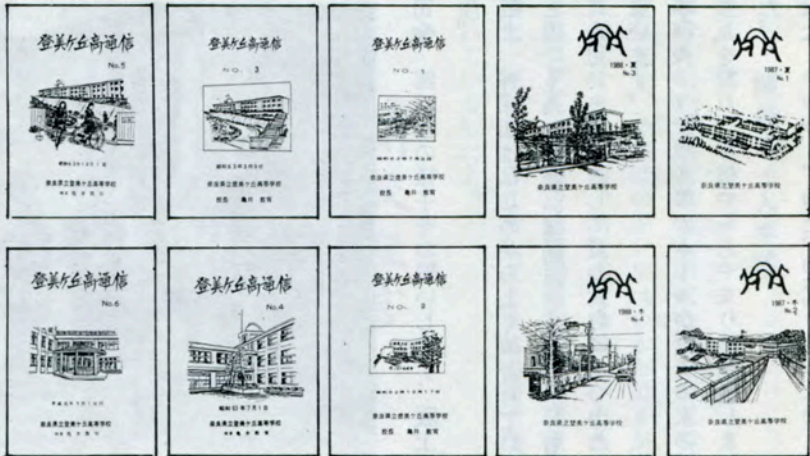
県立短大体育館での練習



仮校舎・運動場での練習

司会 入学早々に都祁吐山の、野外活動センターの宿泊研修に出かけましたが、その時のことを校長先生どうぞ。

吐山の宿泊研修



吐山野外活動センター 自炊

校長 開校前から申し込みをしておき、四月24日・25日の両日全体指導、学級指導等を兼ねて吐山の野外活動センターに宿泊研修に出かけましたね。

阪上 特にナイトハイキングでは道なき道を辿り、神社の裏に出てこれた時はほっとしました。

集合に遅れてきた生徒が居り、全員正座させ、反省させたことを覚えています。先生方も皆燃えていたように思います。

校長 センターの所長さんに、すばらしい動作とマナーにたいして、おほめの言葉をいただきましたね。

校歌制定・校歌発表会

(生駒を望むこの丘の……)

司会 本校は開校してすぐ校歌を制定しましたが、校長先生からその思い出を話していただきます。

校長 作詞に当っては、校舎建築予定地に何回も足を運び、事実上の雑木林の中で構想を練りました。

基本的な考え方として、本校の位置する地形、教育方針と校訓、学舎像と理想像を入れながら、親しまれ、唱いやすいもの、若人が常に口ずさめる様なものと思いい作詞しました。作曲は、音楽講師の植野真奈美先生に依頼しました。夏の高校野球に、ひよっとしたら合唱せねばと思いい、校歌発表会を持ちましたね。植野先生のお母さんに独唱して頂きましたね。

阪上 校歌はその学校にあるのが当然だと思っていましたから、このようにして作るのかとはじめて体験し、斬新だなあと思いました。校長 完成までは、相当の月日がかかりました。やはり、発表会を持てた時は感激でした。



校歌発表会

地鎮祭

司会 工事着工前の地鎮祭についてはどうでしょうか。

校長 校舎建設の安全祈願ということで地鎮祭をされたが、小南先生、あの日はすごい雨でしたね。

小南 雨でしたね。私も地鎮祭なるもの、いや学校の地鎮祭なんて一生に一度あるかないかという出来事ですけれど、雑木林の中でここが基礎を固める場所ですと行って、神主さんが雨の中で安全祈願されたことを覚えていません。

校長 現在の調理室の位置ぐらいの所にテントを張って、どしゃぶりの中、傘をさして、

神主さんがずぶ濡れになって祈願して頂きました。

やはり、地鎮祭が雨だったから、学校行事がよく雨降りなのかなあ……。 (笑)
落成式はどうでしょうね。祈りましようや。



大雨のなか安全祈願

いよいよ建築工事着工

司会 それでは建築工事はいつ頃から着工されたのですか。

校長 実際、工事が着工されたのは昭和六十

一年十一月の中頃に造成工事が始まりました。工事着工と言っても起伏の多い雑木林の丘陵地帯ですので、まず最初はチェーンソーで雑木の伐採でした。チェーンソーの騒音で周辺の方には大変ご迷惑をおかけしたと思います。

ブルドーザー等の機械が使用されての本格的な造成工事は、年も明けた昭和六十二年の二月の始めからでした。私はほっとしました。

あの凹凸の多かった雑木林が、こんなすばらしい校舎に変容するとはうそのようです。

宿泊カウンセリング

司会 夏休みに入って海住山寺での「宿泊学習カウンセリング」（宿泊合宿学習）についてはどうでしょうか。

小南 私は二回経験したのですが、この宿泊合宿は、日常の学習のつまづきを真剣に考え心の眼を開く良い機会になっていると思います。

校長 私も毎回参加して、マンツーマンで話合ったが真剣に自分の悩みや、考えをのべてくれましたね。

「しっかり頑張ろう」と握手をしたとき、涙を流していた者もいました。



京都・海住山寺ユースホステル

夏の大会に野球部出場、野球応援

司会 開校一年目早々に、夏の野球大会に出場した野球部の応援に全校体制で行きました。その時の応援の歌唱指導等お世話願った阪上先生どうぞよろしく。

阪上 短大の体育館や、運動場の階段スタンドで、応援練習を積み、全校生一致団結して参加しました。あの時の全校生の若きエネルギーの結果はすごかったと思います。そして



必勝エール

全員Tシャツ姿で頑張りました。即興の生徒中心の応援団もよくやりました。結果は無惨にも負けました。しかし、応援は勝っていました。――（笑）

校長 全校生の結団のときでしたね。よく頑張ってくれました。

夏の全校登校日は

新校舎見学会を実施

司会 夏の全校登校日は登美ヶ丘小学校を借りての校舎見学会を行いました。その時の

様子をお願いします。

校長 八月五日の暑い日でした。生徒がはじめて、校舎建築地の近くへ全員集まるということ、学校周辺の住民の方々に対して気を遣いました。バス停から小学校まで小集団に分けて先生方に何回も引率をしてもらいましたね。そのころは校舎地までの道は出来ていませんでした。

小学校横から眺めると、運動場もまだ途中だったし、校舎は鉄骨が見える状態でした。



建設途中の校舎をバックにノ

小学校のOHPを借りて工事の過程を説明したが、生徒は暑いなか、一生懸命聞いていました。期待もあったのだと思います。

その後、小南先生に、校舎の建築途上の風景をバックに記念撮影をクラス毎にしてもらいました。

文化祭・体育大会

司会 仮校舎での第一回文化祭について中野先生お願いします。

中野 小規模な文化祭でしたが、育友会の方々に飲食模擬店バザーに協力参加していただきました。夏休み中に何回も会合を重ね、文化祭ではおいしいおふくろの味を提供していただきました。赤字を出さないように心配しましたが、うまくいきほっとしました。

阪上 サッカー部の試合で部員が丁度、校門前を出発する時、バザー飲食の生徒達の激励の声援が飛び、それが印象的でした。

司会 文化祭に続いて体育大会を実施しましたが、阪上先生よろしくお願いします。

阪上 場所もないし、用具もないし、鴻ノ池で行なったわけですが、一学年だけの小人数のみすぼらしさと、雨降りで冷え込み、審判の先生方もびしょ濡れで大変お世話になりました。

した。なぜ、行事にこんなに雨が降るのかなあと思いました。(笑)

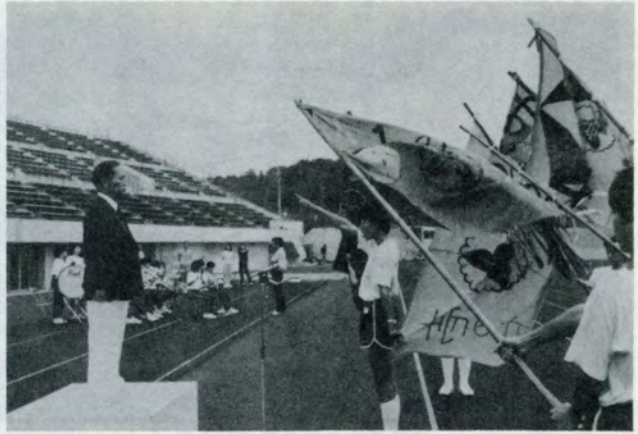


ハイ、サービスですノ

堀内 決勝審判の先生方も、雨の中びしょ濡れになって、さんざんでした。

阪上 三日間の体育祭と文化祭はよくできたとおもいます。クラス旗も短期間に創作し、生徒もよくやったと思います。

校長 文化祭・体育大会ともに、第一期生の諸君は、施設・設備の不備のなか、耐え忍んでよく頑張ってくれました。



開会式 宣誓

さよなら仮校舎

司会 狭いながらも楽しい我が家ではありませんが、いよいよ仮校舎とも二学期、十二月でおさらばということになります。二学期の終業式の後「さよなら仮校舎式」を行いましたね。小南先生、その時の思い出はどうですか。

小南 スライドでありし日の思い出を振り返りました。皆一生懸命見ていました。あれは

印象的でした。あのスライドは、六〇〇から七〇〇コマの中から三〇か四〇に絞ったのですが、作るの大変でした。忙しい中での作制でしたので。

阪上 狭いし、不便だったけど、生徒と先生とが温かい心で学習活動をしていたように思う。

新校舎への移転

司会 いよいよ仮校舎ともお別れ、十二月には移転ということで、みんなで荷物を作ってトラック十三台ぐらいはあったのではなかったですか。そして、皆で力を合わせて、新校舎へ荷物を運びましたね。大変疲れました。阪上 しかし、業者がほとんどやってくれたので割合要領よくやれたと思います。

ところで、移っては来たものの、学校周辺への道はR一六三からの道しかありませんし、ドロドロの道でした。道が工事のために毎日変わるし、モトクロスラリーのようでした。

新校舎に移って

司会 仮校舎で九ヶ月を過ごし、新校舎での生活となるわけですが、校長先生、感想はど

うでしょうか。

校長 感無量の一言ですわね。やっと自分の城の中で、自分の家で勉強してもらえ。まず、そう感じましたね。先生方は、トラック十三台分の荷物を夜遅くまで、和やかなムードで整理して頂きましたわね。



さあ 移転

司会 そうですね。自分の家に帰った感じでした。それでは、生徒の通学路の様子はどうでしたか。

校長 生徒の通学路に当たる周辺自治会の皆さんに、生徒の通学についての協力と理解を要

請し、交通マナーを十二分に心得、住民の皆さん方にご迷惑をお掛けしないということで話し合っていた最中でした。

司会 阪上先生、第一印象はどうですか。

阪上 私は童宮城のような所という印象が強かった。グラウンドは広いし、野球等のネットが高いなあと思った。私は教科が体育ですので体育設備に目が向き、ベンチ式応援席これはすばらしい。使い道が多いし、テニスコートも立派だし、部室もいい場所だと思いました。

広いグラウンド、広い体育館

司会 グラウンド開き球技大会、体育館開き新春百人一首かるた大会を行いました。その印象はどうですか。

阪上 仮校舎では押し狭げられた狭い所でやりましたので、のびのびとやっています。生徒も先生もニコニコして、のびのびとし、広い、新しい場所っていいなあと思いました。しかし、工事中で引き渡しがまだということで、使用禁止の場所も多く、不自由な所もありました。今年はやっと楽になりました。た。

校長 うれしかったのは、全天候型コートで

テニス部や、野球部やサッカー部の諸君が、練習始めの時に、「始球式を校長先生にしてもらいたい」と言ったので、始球式をしたことが印象的です。



新春百人一首かるた大会

タイムカプセル埋設

司会 昭和六十三年三月、入学検査発表のあと終業式の日、タイムカプセルを埋めました。その時の様子を中野先生、お願いします。中野 校長先生のアイデアで十年後の再会を夢見てタイムカプセルを埋めたのです。中へは、作文「十年後の私」、美術作品、寄せ書き、写真、カセット、ビデオテープ、先生方の寄せ書きも入れました。阪上 女子は何か布の大きなのを縫ってましたね。



タイムカプセル埋設

中野 そうです。家庭科の作品を入れたのです。十年後が楽しみです。本格的カプセルだから中身は絶対大丈夫です。

平成十年十一月十五日、日曜日です。誰か覚えてるかな。

司会 仮校舎時代から、生徒による学校周辺通学路の奉仕活動を行っており、新校舎に移ってからも続け、先生方も奉仕活動に加わっていただきましたね。

小南 そうです。あの時空カンとか、相当集めました。



先生方の奉仕活動

開放講座 開催

司会 今年昭和六十二年度は本校で初めて開放講座が開かれましたね。

校長 奈良県教育委員会の委託を受け、本校の施設・設備を開放し、地域住民の皆さん方に文化的活動の普及振興を図る目的で実施しました。あわせて、本校を理解して頂きたいとの願いで開講しました。

司会 内容等について、事務長さんいかがで

すか。

事務長 内容としては、「健康管理」「自然観察」「体力測定」「月・星を観る会」を実施しました。

どの講座の参加者も、熱心に参加し、喜んでいただいたように思います。

司会 初めての試みだったので事務長さんも大変だったのではないですか。

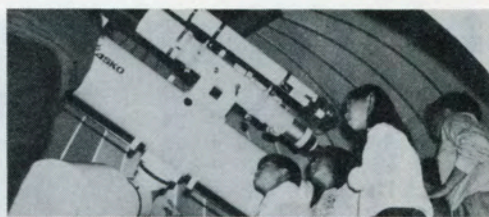


校庭での植物観察



運動場での体力測定

事務長 興味深い実施内容だったので、受講者も熱心に参加し、意義ある講義だったと思います。また、初めてとしてはうまく実施で



月・星の観測

きたように思います。

今後の期待と展望

司会 新校舎へ移っての色々な思い出・創設期の思い出は尽きませんが、一応このあたりで一区切りとして、最後にこれからの期待と展望を話していただくことにします。

校長 国際化・情報化の時代に対応できる素質と能力をもった人間形成の場として、最高の施設・設備を完備して頂いたわけですので、

「仏作って魂入れず」の結果にならない様に頑張ってくださいですね。

いよいよ三年目の正念場を迎えたわけですが、教職員、生徒、保護者が一体となって頑張ってくださいと願うばかりです。

司会 続いて教頭先生いかがですか。

教頭 今のこの盛り上がりで状況が進むならば、本校のタイムカプセルが開けられる十年後にはきっと素晴らしい学校になるだろう。いやしなればいけないと考えています。

事務長 まあこれからこの界隈の環境も、今考えられないぐらい変化していると思う。本校もきつと立派に伝統が出来ていくと思う。

中野 周辺もどんどん新しい家が建ち、この周辺は教育熱心な地域ですからレベルがすぐく上がっていると思います。

阪上 私は、生徒に「あの登美ヶ丘高校出身か」と尊敬されるような人間になれとよく指導するのですが、きつとそんな学校になると思います。

堀内 開校当初に進路指導で進路説明会に来ていただいた浜田先生の話にあったように、本校の進路指導が十年後どうなっているかが問題だと思います。そのためには設備をうまく使いこなし、利用できる教員はもちろんのこと、生徒の努力・実践によると思います。

中嶋 設備は県下一と思えますが、それを前向きに取り組む姿勢が大切だと思います。

小南 将来は、学研都市の隣接地にふさわしい学校になっていると思います。それまでの記録は写真で撮っておきたいと思います。

司会 それでは最後にまとめとして校長先生の挨拶をお願いします。

校長 本日は、長時間に亘って、本校創設当時の苦労話や想い出を回顧して頂き有難とうございます。

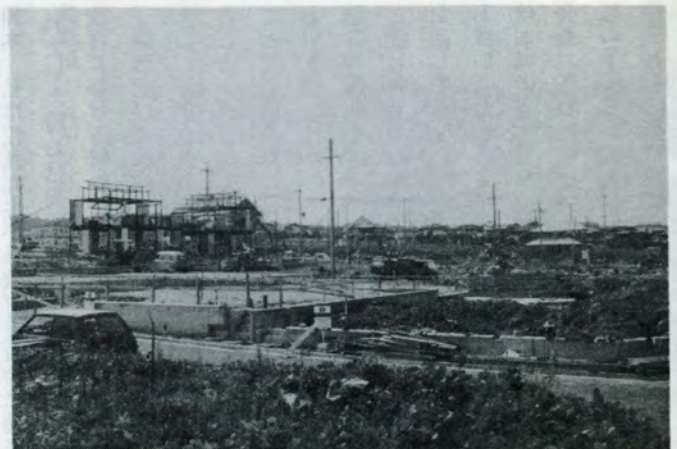
まず、施設設備の不備のなかで、耐え忍びながら全教職員・生徒が協力して頑張ってきた足跡を大切にしたいと思います。

そして、県下に誇るこの施設・設備をすべての教育活動に生かし、特色を発揮し、二十一世紀に向けて、国際化・情報化の時代に対応できる個性豊かな生徒の育成に努めていきたいと思います。

落成を迎えるこの三年目を一つの節目として、創設期を反省し、充実期を迎えたいものです。

最後に教職員、生徒、保護者が、がっちりとスクラムを組んで、良き伝統と校風づくりに頑張ってくださいと願っております。

司会 本日は長時間熱心に歓談くださいましてありがとうございます。諸先生方からの



開発著しい校舎周辺住宅地

お話を貴重な糧として、この座談会は落成記念誌に掲載させていただきます。これを節としてすばらしい伝統を築けるように努めてまいりますと考えています。

どうもありがとうございました。（拍手）

（平成元年二月一日）

【育友会座談会】

育友会結成当時の
思い出と今後の展望

出席者（敬称略）

育友会長 中林時彦
副会長 廣瀬一允
" 高橋倫子
書記 満恵川 佐代子
" 安田明美
會計 安部堯子
" 林 寿子
監査委員 鈴木 進
" 藤本 佐喜子
" 亀井 敦有
" 岡村 隆司
" 城ノ内 三郎
事務長 城ノ内 三郎
" 中野和昭
庶務部長 中野和昭

司会 今日では落成式を迎えるに当たりまして育友会結成当初から今日までいろいろご苦労いただいたことをお聞かせいただければと思います。最初に校長先生からご挨拶と最初の組織作りのことからお話しをお願いします。



校長 本日はお忙しいところお集まり頂きありがとうございます。私は開校準備の時から早く育友会を結成して、学校・保護者が一体となった教育を願っておりました。

入学式の午後、育友会設立検討委員会を開いて頂き、まず各学級より三名の学級委員の選出を決定して頂きました。

五月六日の第一回学級委員会で、会長を除く本部役員の決定と会長選考委員長に鈴木さん、副委員長に宮村さんを決めて頂き、私と三名で会長就任依頼の活動を始めました。五

月十三日夜、中林さん宅を訪問させて頂き、人生観や教育観をお聞きして感動し、この方以外に無いと思ひ、会長さんをご承諾頂いたわけです。五月十九日、第一回本部役員・学級委員総会で設立総会について検討して頂きました。

司会 それでは次に深夜までご苦労頂いた鈴木さんから当時の思い出をお話し頂けたらと思います。

鈴木 私は校長先生が県教育委員会に勤務されていた時お話を伺う機会があって先生の教育にかける情熱に感銘を受けていたので、子供はぜひ本校に入りたいと考えておりましたし、子供も強く希望していたので入学できたときの喜びは大きく学校のことならどんなことでも協力したいと思ったので、委員長をお引き受けしたのですが、会長には人格・見識等の条件もあり、何度も深夜まで校長先生と話し合った結果、中林会長さん宅を訪問しお話しをお伺いしてこの方以外に無いと思ひお話ししたわけです。お引き受け頂いたときは本当にうれしかったです。

会長 私の知らない話があったのですね。(笑)私の子供も本校入学を強く望んでいたので入学式には夫婦で出席しましたが、厳粛な式典

学校長の感動的なお話や、新入生一人一人と握手された姿に感銘を受け、この先生にお任せすれば立派な人間に成長してくれると確信しました。会長職は重職でも私の役でないことと認識していましたが、私のできる範囲のことで雑巾掛けをするつもりでお引き受けしたわけです。

安部 初めてお会いした役員の方々でしたがこの方々となら楽しくやっていけると思いました。それにしても行事ごとに雨や雪で雨の多い学校だなあと思いました。(笑い) これからも和気あいあいやっていきたいと思えます。

司会 それでは話題を変えて設立総会の思い出をお話し頂きたいと思えます。

校長 五月二十六日仮校舎の合併教室で開催しましたが、一四一名(出席率五八・九%)という多数の方が出席頂き、三時間近く熱心に審議をして頂き、よくここまで漕ぎ着けて頂いたと感激の総会でした。

安部 今まで経験しなかった活発な総会でびっくりしました。

司会 それでは次に、今日までの活動についてお話し頂きたいと思えます。

会長 新設校はえてして初年度は参加しない夏の高校野球大会に出席したことで校長先生

の強烈な意志と教育方針を明確に示しておられることを感じました。多数の保護者が応援頂き嬉しく思いました。最も印象に残っているのはバザーで役員と委員では手不足なため、応援をお願いしたところ、役員・委員を上回る方々が協力を申し出て下さったり、地区別懇談会にも多数の方が参加して積極的にご発言頂いたりし、我々は野外席ではありませんが子供達は見守られている意識の中で育まれて行くと思えます。

鈴木 仮校舎のみんなが入れないような狭い校長室でやった役員会をなつかしく思います。一期生の諸君は不自由はしたが、二期生には味わえない良い経験をしたと思えます。

廣瀬 第一回文化祭は、仮校舎と一年生だけという条件もあって、育友会がバザーを担当することに、私が実行委員長になったのですが、何しろ初めての経験で要領が分からず、何度も仮校舎のうだるような暑さの教室で準備の話し合いをしたことが印象に残っています。

安田 初めての役員経験で不安でしたが、いろいろ教えて頂き良い勉強になりました。育友会活動に参加して頂ければ学校教育の内容がよくご理解頂けると思えます。



お母さん 大活躍

満恵川 最初は軽い気持ちで役員をお引き受けし、何もお役に立てませんでした。しかし吸収することが多かったと思えます。高校生年代では、親が直接教えるよりも、母親が生きて生きているほうが、色々な面でより教育的であると聞き、今日も大きな顔をして学校に来ました。

校長 役員の方々が学校行事に積極的に参加して、学校に協力頂いたことを非常にありがたく思っています。またバザー等の活動が会員の親睦に大きなはたらきとなったと思いま

す。

高橋 広報部は今年の新聞を四ページにした
いとほりきっています。先日ご協力をお願い
しましたアンケート結果をもとに、親子関係
についての問題提起を考えています。

藤本 役員会に出席させて頂いているら
勉強できました。役員の皆さんのチームワーク
の良いのには驚いています。バザーやケーキ
教室で多くの方と交流できて良かったと思
います。

司会 それでは最後に、今後の展望について
話して頂けたらと思います。

会長 役員になって学校の様子がよく分か
り、子供と共通の話題もでき、学校生活もよく分
かるようになりました。

学校に来て頂く機会の少ない一般会員の方
にも、部活動の後援会組織のようなものをつ
くり、小さな集まりの活動でもそれを広げて
いくのもよいのではと考えています。

安部 地区別懇談会を学年別に実施すれば学
校の様子もよく分かり、先生方とも親しくな
れるのではと思います。またバレーボールや
ソフトボールなど、体育行事を実施してはと
考えています。

とにかく、できるだけ多数の会員の方が育
友会活動に参加することで先生と保護者が子

供の悩みや生き方にかかわる問題を話し合う
場を確立するように努めなければと思います。



地区別懇談会

鈴木 千里ニュータウンのTV報道を見て感
じたのですが、コーラス・絵画などの活動を

通じて隣の人の顔も知らなかった団地の人々
が、コミュニケーションの輪を広げ、今では故
郷のように感じていると話していました。

今後の活動のヒントになるのではと思います。

廣瀬 本校は生徒の学力向上のためAPテス
ト、スタディホールアワー、実力養成講座を

先生方が早朝から放課後遅くまで熱心に取り
組んで下さっており、頭の下がる思いですが、
この効果が相当現れているとお聞きしていま
す。育友会も先生方と共に力を合わせて、子
供の進路保障に努力していきたいと思いま
す。司会 本日は遅くまで熱心に話し合っ
て頂きありがとうございます。最後に会長さんと
校長先生にご挨拶をお願いします。

会長 各部で学習会などを積極的に
行い活発な活動を実施すると共に交流の輪を
広げて行きたいと考えています。このことが
子供達に良い影響を与えると考えていま
す。

校長 今日とは節分でお忙しい中、遅くまで熱
心に育友会活動の在り方や、本校教育の本質
論を述べて頂きました。意欲的に本校教育の
ために学校と一体となって歩んでいこうとす
る皆さんのお気持ちに対してありがたく思っ
ています。どうもありがとうございます。

生徒会 座談会

第一期生徒会役員

会長 岩井田武司
副会長 栗本 大 細川宏一
書記 白木友美 江藤真美子
会計 中林千夏子 鬼武弘征

第二期生徒会役員

会長 林 研志
副会長 田村隆昭 西尾直哉
書記 榎本美穂 長通素美
会計 仲田明紀 橋本大樹

司会 本日は第一期・第二期生徒会役員の皆さんに集まっていたきました。生徒会作りについて話し合っていたきたいと思えます。まず、第一回リーダー研修会での苦労話を教えてください。

岩井田 一期生として入学したばかりの五月まだ生徒会組織がないため、各クラスの正・副室長が参加して行われました。

中林 生徒会規則もなく、県内から集めた百冊近くの生徒手帳を一冊ずつ見、検討していききました。

司会 では、第一回生徒会役員選挙はどのよ



うにして進んでいったのですか。

鬼武 立候補者が少なく、副会長のみが選挙であとは信任投票でした。先生や友人に推薦されて立候補した人が多かったようです。

司会 新役員になって最初の活動である生徒総会はスムーズに進行しましたか。

栗本 総会の約一週間前から七名の新役員で準備にかかりました。他校の方法を参考に進めていきましたが、一番心配だったのは、生徒会予算審議の際に質問されたらどうしよう

かということでした。しかし、それも取越し苦労に終り、ほっとしました。

中林 一年目ということで、各クラブの予算額が非常に少なく、キャプテン会議は難行しましたが、なんとか納得してもらえました。

司会 ところで、六十二年七月の野球応援は一期生のみの声援だったわけですが、どうでしたか。

白木 応援方法・振り付けなど、みんなで見を出し合って工夫し、一体感がより強まったように思います。

鬼武 しかし、惜しくも一回戦で負けってしまったので、今年こそは初の一勝をあげられるよう僕達も精一杯声援を送りたいです。

司会 では、第一回文化祭「ハンド イン ハンド」について振り返ってみましょう。

岩井田 伝統もなく、生徒会としてもどのように進めてよいのかわからずに困りました。

結局、クラス展示なども全くとできず、芸術科の発表だけに終わってしまい、寂しいものになりました。

司会 鴻ノ池陸上競技場での第一回体育大会はどうでしたか。

栗本 あの日は秋雨が降っていて、とても寒かったのを覚えています。しかし、施設が整っていて、とてもやりやすかったです。

細川 そうですね。年に一度位は競技場で走
るのもよいものですね。これからも、是非続
けて下さい。

司会 さて、ここで二年目の生徒会役員諸君
に参加してもらいましょう。前役員の苦労話
を聞き、改めて責任の重大さを感じたと思
います。

林 本当に。一期生として今まで共に行動
してきましたが、見えない所で随分苦労があ
ったのを知り、今、改めて「よし、やるぞ」
と心に誓っています。

西尾 僕も同じ思いです。しかし、第四回球
技大会を生徒会主催で行い、成功させること
ができたのはとてもよかったです。

田村 それに第二回文化祭「take it easy」
楽しくやろうぜ」も、生徒会の手で行うこと
ができ、盛大なものとなりました。あの頃か
らかなり生徒会活動も活発になってきたよう
に思います。

司会 様々な活動を生徒会の力でやってきた
わけですが、新生徒会になって新しくとり組
んだ活動などを紹介してください。

長通 各学期末に、学校周辺の清掃活動を、
「奉仕活動」ということで、生徒会が主催し
て行いました。想像以上に多くの人が参加し
てくれたのがうれしかったです。今後もぜひ

続けていきたいと思えますが、用具をもっと
充実してほしいと思えます。

仲田 生徒全員の声を生徒会活動に生かした
と思います、投書箱を昨年より設置しま
した。坂道の愛称、募集なども投書箱を使い
「トータス・ロード」という愛称に決定しま
した。

林 投書箱は今後も続けていきたいと思
いますが、落書きが多くもっと真面目に活用し
てほしいと思えます。

司会 それでは最後に、今後の生徒会につ
いて話してください。

榎本 奉仕活動や球技大会などのように生徒
会の責任でやる事をもっと増やして行きたい
と思えます。

橋本 生徒会室もできたことだし、名前だけ
の生徒会といわれないよう、自主的に活動し
ていきたいです。

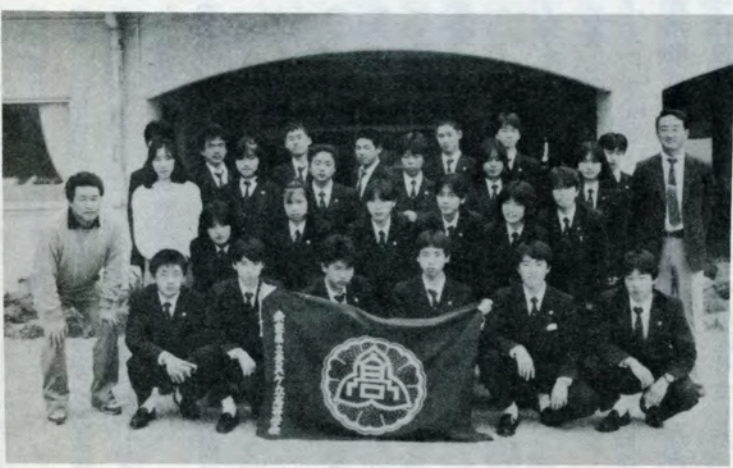
林 私達生徒会役員一同、まだまだ力不足
ですが、精一杯活動していきたいと思えます。
生徒会活動が充実することにより、学校全体
も活性化することになると思えます。

そして、私達の手で登美ヶ丘高校の伝統を
つくっていきけるようにがんばりたいと思いま
す。

学校長 第一期の役員諸君、学校作りの中で

も大事な生徒会活動にいろんな面で苦勞をか
け、艱難辛苦に耐えて生徒会の組織を作って
くれたことに非常に感謝しています。第二期
生徒会諸君、新しい学校づくりのレールを敷
くため、生徒会活動の更なる活性化をはかっ
てほしいと思えます。

(平成元年二月二十三日)



リーダー研修会

数学・英語・理科等の学習に情報処理や

実験観察の体験学習を重視

パソコン利用の学習

情報処理の基礎的技能を習得し、数学・理科・英語の学習効果を高めるために、昨年の9月、情報学習室に、48台のパーソナルコンピュータを設置しました。それに先立ちC A I（コンピュータ支援授業）委員会を設立し、一斉授業形態下における

個別学習の実現を目指し、活動を本格的に開始しました。

このパソコンの大きな特徴は、48台のパソコンが教師側の一台のパソコンとネットワークで結ばれていることである。これにより、理想

的C A I授業が可能になるわけである。このシステムは、まず、コンピュータ（C A I授業のためのプログラム化された教材）を短時間にごく簡単に48台の端末に伝送



することができ、生徒はそのコースウェアをもとに個別に自分のペースで学習を展開することができる。さらに教師側のコンピュータで授業を管理することができ、個々の生徒の学習の状態を居ながらに、理解することを可能にしている。それにより、各端末に種々のコメント、ある学習場面へ強制ジャンプ（画面を変えること。グループで、各個人で）させることや、また、ビデオを流したりすることで、一斉授業の中で個別授業を展開している。

数学・英語・理科の学習はもちろんのこと。パソコン部でもフル活用して学習効果を高めている。

今後、C A I委員会を中心に、コースウェアの開発、情報処理技能の教育や、校務処理等への活用など多面への利用を考えている。

天体観測ドーム設置

観察・実験を通して科学的な思考力と創造的な知性を養うために、県下では例のない4 m天体観測ドーム及び観測機器を設置している。

屋上に設置されたドーム内には、主鏡として31 cm反射望遠鏡（旭精光製、赤道儀式）が置かれ、主鏡の向く方向（赤経・赤緯）はアストロスケールを経由してコンピューター（P C 9 8 U V、テレスコープトレーサー）画面の星図上に示すことが可能となっている。副鏡としては、12・5 cm屈折（タカハシ製、フローライト）、8 cm屈折（五藤光学製）の2台を主鏡に同架しており、特に8 cm屈折には太陽観測用のプロミネンスアダプター（米・ディスター社製）を装着し、太陽観測専用機として利用している。また、観望用双眼鏡5台とC C D T Vカメラを備え、多人数での観望やビデオ撮影もできるよう配慮してあ

本校の特色

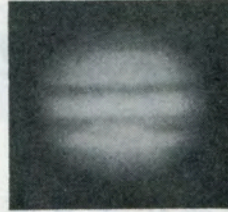
る。

天体観測は夜間行なうものというのが常識であるが、本校の施設は日中の本格的な太陽観測を可能としている。

授業には、エネルギー・ケプラーの法則等で太陽や惑星の観望を取り入れる予定である。又、天文部の活動と共に、施設を地域の人々に開放し、社会教育・天文体験の場としていくことにも努めている。



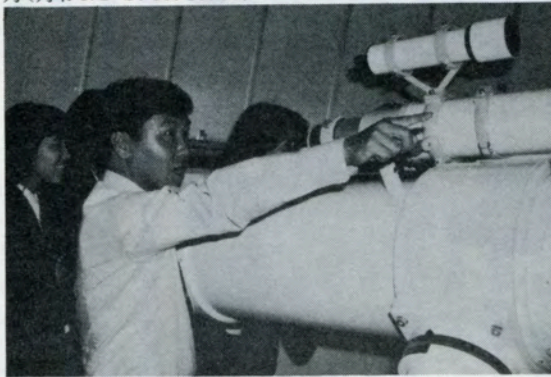
月(月令5.2 S. 63. 10. 16)



木星(S. 63. 10. 26)



土星(S. 63. 10. 1)



天体観測

学力・体力の向上を目指す学習

(1) APTタイム

不断の努力により、自己を高めていくための計画された時間。

到達目標を決めて、年間計画に従い、国語・数学・英語の基礎学

力の向上を目指してきた。

(2) スタデイホールアワー

不得意科目より教科目を選択し、自己の能力を自己の努力により最大限に引き上げていく時間。

年間計画に従い学力補充を目指している。

(3) 学習宿泊カウンセリング

自分に適した学習パターンをつかめず、自分の実力を十分に発揮できない生徒に対し、この宿泊を通じて、個人別カウンセリング等を行い、確かな学力を身につけさせる礎としている。

(4) 実力養成講座

自己の実力をより向上させ、学習に対する実践力を養っている。

(5) 基礎講座

総復習を中心とした学習を行い基礎学力を身につけさせている。

(6) 7200タイム

生徒と教師とが人間関係を深めるための時間。

面接指導、進路指導、学習活動、部活動等を通して、

話合う場と時間とを設定し、教師が生徒理解に努めることにより、生徒のもつ色々な悩みを受けとめ、的確な指導を行っている。

(7) 102 km 走破

体力づくりと忍耐力を養う時間。

在学3ヶ年間で、102 kmをマラソン大会、体育行事等で走破し、

自己の心身を鍛え、困難に直面しても挑戦する強い精神力と気骨を養っている。

部活動の歩み

〈文化部〉

写真部

登美ヶ丘高校写真部は、開校初年度に発足しました。仮校舎が元教員養成所であった関係上、幸いにして、暗室・引き伸ばし機など部活動の最低限の施設・備品には恵まれました。学校の生徒たちの活動風景、学校近くの鉄道、寺院、明日香路など、とにかくカメラに収めるところから出発しました。その後待望の新校舎に移転はしたものの、暗室の完成は3期工事ということを聞いて落胆しました。

ようやく本年4月から素晴らしい暗室ができ、カラーの引き伸ばし機も購入してもらいました。現在部員は8名になりました。本格的な活動はこれからという段階です。素晴らしい写真は、その作品から作者の息吹が感じ取れます。自分の個性を十分発揮し、自分しか撮れない作品を作る。これが登美ヶ丘高校写真部の部の大きな目標です。

生物部

登美ヶ丘高校は、雑木林に囲まれ、ウグイス・キジ等の野鳥の声が聞こえる自然環境の良い所にあるが、一方、開発の波が押しよせてきていることから、周辺の動植物の観察を行い、その推移を記録している。

夏は、吉野地方の山岳で動植物の観察を行い、身近かな自然との比較研究をしている。また、建設省大和川工事事務所の依頼により、大和

川の水生生物による水質調査を行い、「サワガニ会議」のシンポジウムで発表して、見事優秀賞に輝き、建設省より感謝状を授与された。花粉症の原因になっているスギ・ヒノキの花粉飛散状況を一月から五月にかけて調査している。NHKの取材があり、四月に放映された。その他、動植物の生態をビデオ・スライド等で撮影。また、動物の飼育も行う。

天体部

天文部は、一・二年生を中心とする総勢二十一名の部員から成り、今年度理科部から独立したばかりの部です。本校に設置された県下に例のない数々の天文施設を利用し、これから星空の世界を探索していくと、皆張りきっています。活動内容は、部会（各週）と天体観望（月一、二回）が主なもので、部会では部員各人がテーマを決めて研究・発表・討議をします。天体観望は、四季おりおりの星座、興味深い天体を観望し、美しい天体写真を撮っていきます。又、太陽の活動が活発化しつつあるので太陽の連続観測も行ない、部会での研究も含めて文化祭の展示や部誌にまとめていく予定です。夏休みには夜空のきれいな山中での合宿も行ないます。今後の天文部の活動に乞う期待。

華道部

開校以来、講師をしていただいている山村、高橋両先生の御指導のもと、地道に活動を続けています。花を通して、自然と人間、物のあわれ、情愛等、情操教育に重点を置き、花の出生に逆らわず、自然をいかに形よく美しく生けるかを目指しています。

主な活動としては、日常の稽古に加え、文化祭での展示発表、石州流宗元慈光院での研修等があげられます。今後はさらに部員数を増やし、従来の活動を続けていくことに加えて、野の花の観察等自然に学

ぶ積極的な研修を重ねてゆきたいと思っています。

茶道部

先輩のいない10名の新入生でスタートし、音楽準備室に八帖の畳を敷いて、真行草の礼、袱紗さばき、茶筌とおし等の練習を重ねた。文化祭では、すだれで水屋とお茶室を仕切り、月見の風情を楽しんでいた。ただけよう工夫し、やっと覚えた盆略点前を披露した。二年目、部員も20名に増え、六帖の和室と昨年からの八帖の畳を敷いての練習。

夏休みには森田先生宅の茶室で富雄高校との交換茶会を催し、昼食の作法を学ぶことが出来、大変良かった。今年も待望の八帖の茶室と二七帖の大作法室が完成し、30名の部員が本格的にお茶の心や風情を学んでいる。お客に落ち着いた雰囲気の中でおいしくお茶を召しあがっていただけるよう、心にゆとりと思いやりをもってお点前をする。そんな心を養いたい。

パソコン部

本校パソコン部は発足当時は、元教員養所を仮校舎としていた上に、パソコンも学校の校務処理用が一台あるにすぎませんでした。そのため活動もほとんどできない状態でした。しかしそのような悪条件の下で唯一その一台のパソコンを使い細々ながらプログラムの作成を中心に活動を始めました。新校舎に移る頃からBASIC言語を使い、新校舎の概観を作成しプログラミングコンテストにも応募しています。その中で待ちに待ったパソコンが昨年の10月に48台はいり、本年度からはそれらを使い、学校紹介等の作品や個人のプログラム作成を中心に活動しています。部員も30名近くにふえこの恵まれた環境の中で、学校に役に立つことや情報処理技能を高めることを中心に、活動していきたいと思っています。

E・S・S部

週二回、主にテープなどの教材を使ってスピーキングやヒヤリングの訓練をしている。すらすらと英語をしゃべれるようにはなかなかないが、自分の知っている単語で何とか自分の意志を伝えられることを目的にしている。英語の授業とはまた違った方法で英語に触れ、英語を使いながら、自然に、楽しみながら文や単語を覚えていけるようにしたいと思っている。今後は特に、英検を受けたり、弁論大会に出たり、外人と話す機会を増やすなど目標を設定しながら、活動をより活発にし、外国語を学ぶ楽しさを理解させたい。

書道部

書道部は、少人数ですが、週三回熱心に活動をしています。思い出してみると、発足一年目は書道教室もなく、狭い場所で工夫をしながら練習をしていましたが、現在はやっぱりな教室でのびのびと筆を走らせています。

これまでの実績の一例を挙げると、大神神社書初め大会特選・談山神社奉書展特選・近畿高等学校総合文化祭書道部門参加などがあります。これからも自分の個性を生かしつつ、楽しくのびのびと作品製作に取り組んでもらいたいです。また、ワープロなどが普及してきた時代だからこそ、伝統芸術である書道の良さを再確認して欲しいと思います。

美術部

発足当時は三名の部員でスタートした美術部も、現在十五名の部員をかかえるようになった。放課後のひととき、絵の好きな者が集まり絵筆をふるっている。毎年、文化祭には共同製作を含めいろいろなことを試みている。昨年の文化祭には二つのグループに分かれ、二枚の

100号油絵を製作した。それが「二つのワールド」である。製作日数二カ月余りの大作が完成した時の喜びは言葉に尽くしがたいものがあった。この経験を生かし、今年度文化祭に向けての構想を練っている現在である。油絵、水彩、デッサン、デザイン、イラストから絵本製作まで、部員のユニークな個性に応じた自由な雰囲気の中で活動を続けている。

吹奏楽部

開校三年目、我が吹奏楽部は新入部員20余名を迎え、大きく前進しようとしている。創部当初、楽器の種類や名前を覚えることから始めた初代顧問や一期生たち。その努力が、野球応援のための小さなバンドを生んでくれた。その後、文化祭や県のアンサンブルコンテスト（小グループでの演奏コンテスト）等、地道に努力を重ねてきた。現在、部員は40数名、ほとんどが、初めて楽器を手にする生徒で、その楽器も半分以上が他校からの借物である。しかし、「みんなで思いっきり吹奏楽を楽しみたいノ思いっきりいい音楽を奏でたいノ」という気持ちで、きつとすばらしい音楽集団への発展を約束してくれるものと思ふ。

演劇部

去年六月から発足し、年度途中というむずかしい状況ではあったが二十名の部員が入部してくれた。発声練習、パントタイム、台本読み等の基本練習を繰り返し、文化祭公演をめざした。文化祭では、井上ひさしの「十一ぴきのネコ」の公演を成功させることができ、部員の間で、第二回公演にむけての新たな意欲を確認し合えた。今年の二月には演劇部単独公演会を催し、「ドリーム・アゲイン」を公演した。

現在は部員二十四名で、心身ともに成長期にある高校生の豊かな感

受性と表現力の育成をめざして活動している。今後は、年間三本の舞台公演を定期化すること、県高等学校演劇発表会に参加することを目標として取り組みたい。

放送部

開校して三年目、全学年生徒が揃い、新しい校舎での生活にも慣れてきました。開校当時は仮校舎で、放送委員こそありましたが、今までの二年間は、その委員会としての活動は、ほとんどしていません。しいて言えば、体育大会や文化祭等で放送のお手伝いをしたくらいでした。しかし今年から、委員会とは別に放送部が発足し、一つのクラブとして活動をスタートしようとしています。初年度でもあり、どれだけの活動をできるかわかりませんが、まずは、放送委員と協力して昼休みの放送を開始し、ここで自主製作番組を発表していきたいと思ひます。また、視聴覚の充実した設備を利用し、放送コンテストに出品できるような、ビデオ番組の製作も始める予定です。

新聞部

今年度、部局として発足したばかりで、現在部局員二名と、各クラスの新聞委員によって活動を開始した。「落成式特集号」を創刊号として、今後は、学期に一回学校新聞発刊をしていきたい。

解放研部

解放研の活動は、未だ充分できていないとは言いきれない状況にあります。しかし、解放奨学金の貸与化に見られる同和行政の問題や、続発する差別事件・落書き等は、私達一人一人がもっともって、人が人として生きる権利を見つめていかねばならないことを示しています。差別の根というものは誰の心の中にもあり、私達そして社会の中から差別の根を廃していく為には、常に心の中を点検し行動していかね

ばなりません。今年フランス革命二百周年にあたります。人類史とは、人權獲得、拡大の歴史であると言っても過言ではありません。解
放研も今年、精一杯頑張るつもりです。

〈 体 育 部 〉

陸上競技部

陸上競技部の活動は、本校の開校と同時に、仮校舎の小さなグラ
ンドで始まりました。部員は男女合わせて15名で、中学での経験者は、
3、4名という状況でした。まず正しく歩く事から始め、次第に走る
事に移行していきました。学校側の配慮で、鴻ノ池グラウンドを借りる
事が出来、生徒は授業終了後走って行き、4時から5時までの貴重な
時間を急いで練習した事が思い出されます。本校舎に移り施設が良
くなったにもかかわらず、退部者が多く出て、現3年生は、2名にま
どってしまいました。苦しい事を避ける現在の若者には、向かない種
目なのか、本当の陸上競技のおもしろさを伝えられない私の力量不足
か悩みながら、現在も指導を続けている状態です。

柔 道

この秋には待望の格技場が完成する予定である。思い起こせば仮校
舎の時代には、隣の県立短大の体育館を借り、舞台の上にマットを敷
いて練習してきた。本校舎に移っての半年間は、練習場がなくてラ
ンニング等の体力づくり中心のメニューを組んできた。現在は、アス
ファルトの上に十八帖の畳を敷いて練習をしている。こうした悪条件
のもとで頑張ってきたからではないか。しかし、その三年生も格技場の完
成を待たずに引退する。残された部員は、一年・二年、合わせて三名。

柔道部にとってまた新たな試練が待ち構えているが、その試練をバ
ネにして、より一層躍進していきたいと思っている。

バスケット

開校と同時にバスケットボール部も発足しましたが、ボールもユニ
ホームも、又体育館ありませんでした。『悪条件をバネにして強く
ならなければいけない』と、いうことを生徒に何度も話をし、練習を
重ねていきました。昭和62年9月の県高校総体では、公式戦初出場、
又一年生ばかりのチームであるにもかかわらず四回戦まで進出し、ベ
スト16になった時はうれしい限りであり、将来はきっといいチームに
なると確信したものでした。厳しい練習にも徐々に慣れ、新入生も入
部し、クラブとしても軌道に乗ってきました。有望選手もあり、将来
はインターハイを狙えるチームに育ってくれることを願っています。

バレー部

開校当初から新入生ばかりでスタートしたバレー部も、今年三年目
を迎え、新入部員も多く入部し、ようやくチーム作りも軌道に乗っ
てきた。体育館もボールも何もないところから出発して、数々の悪条件
にも負けず、日々練習を積み重ねている。輝かしい戦績はまだないが、
男子女子共に目標は高く、近畿大会を目指している。今まで先輩がい
なかつたせいか、クラブ組織として少々甘いところがあるので、今後
は、楽しくやりながらも、厳しさのあるチーム作りというのが課題で
ある。

硬式テニス

全天候形の人工芝コートという練習場に恵まれた中、毎日放課後練習
を重ねている。現在は部員も男女合わせて七十名という大所帯となり、
今年度のインターハイ予選では、男子ダブルスにおいてベスト4とな

るなど、着実に力をつけてきている。発足当時より、中途半端な妥協を許さず、真剣に一つのこと打ち込む姿勢を大事にしてきた。今後、もテニスの技術向上だけでなく、人間的にも大きく成長してくれることが目標である。

サッカー

開校と同時にサッカー部が創部され、高体連の大会に出場するが、約1年間は全て一回戦敗退。2年目の県高校総体北部準優勝、続く2月の新人戦では地域リーグを全勝し一位となり、決勝トーナメントに出場と、年々着実に向上している。また、奈良市選抜や県選抜にもそれぞれ1名ずつ選考され、今も頑張っている。部員数が少ないが、春夏合宿、冬の遠征と厳しい練習が、今実ってきている感じがする。サッカーで最も必要なことは、「imagination・thinking」であり、個々の高い能力が要求される。そういう意味でも、一に勉強・二にサッカー・を合言葉とし、時には厳しく、時には楽しく、好きなサッカーをやっている。

目標はもちろん県大会優勝！

野球

開校一カ月後の昭和62年5月に創部された本校野球部は、その年の夏の奈良大会より公式戦に出場した。現在は、野球部員全員の夢である公式戦初勝利にむけて練習に取り組んでいる。新設校ということで、初めのうちは練習試合の相手校を探すのにも随分苦労をした。しかし、今春の3月には創部以来初の県外遠征（和歌山県）試合を行うことができた。

部員全員が一丸となって試合に挑む「全員野球」をモットーに公式戦初勝利をめざしがんばっていききたい。

弓道

開校当初、仮校舎時代、女子だけの部としてスタートしました。元小学校教員養成所一階南側と野球ネット横に特設の弓道場を作ってもらい練習を始めた。始めたと言っても用具、「弓」も「矢」も「巻きわら」も何もない状態からの出発で、練習は困難を極めた。まして顧問は全くの素人だったので、弓道教本を読みながら、特に弓道の活動は先ず「静のスポーツ」と言われるように「心の修養」を根底に置き、基本練習を続けた。

二年目からは、男女の部となり、練習にも活気が出てきた。練習場がない為、駐輪場や南の山辺の空地を利用して練習している。いよいよ三年目、今年は公式戦に初めての出場。これを機に頑張りたい。

ソフトボール

ソフトボール部は、創部一年足らず、部員数も一〇名余りという非常に若いクラブであるが、毎日厳しい練習に励んでいる。昨年までの実績が全くなく公式戦にも出場したことがないが今年には真剣に練習に取り組み、公式戦初出場・初勝利を目指している。練習中は部員同志が声をかけあい、励まし合い、そして時には注意しあってがんばっている。

我がソフトボール部は、教科学習との両立、礼儀正しく、を柱に体と精神を鍛えることを目的としている。三年間ソフトボールを通じて心身ともに充実した生活を送ろうというのがクラブ発足時からのモットーである。これからもその精神を大切に部員一同一丸となって努力していききたい。

俳句

仮校舎

- 冬空が吸い込みそうな仮校舎 (二期生)
仮校舎思い出残し冬に散る (二期生)
秋深し寒さがしみる仮校舎 (二期生)
ヘックション寒い冷たい仮校舎 (二期生)
さようなら想い出深い仮校舎 (二期生)
木枯らしと共に去り行く仮校舎 (二期生)
仮校舎かよってみれば都かな (二期生)



新校舎

- 新校舎寒いがうれしい一期生 (二期生)
霜降りてはつらつと行く新校舎 (二期生)
新校舎信じられない山の奥 (二期生)
山すその季節を映す新校舎 (二期生)
新校舎すすきの原にそびえたつ (二期生)
新校舎工事の音と虫の声 (二期生)
秋空に校旗たなびく新校舎 (二期生)
春の日に緑が芽吹く新校舎 (二期生)
新校舎春のおとずれ待つばかり (二期生)



職員名簿

校長	龜井敦宥		
教頭	岡村隆司		
事務長	城ノ内三郎		
教諭	井階正治	三年三組	副担任 理科
	同和教育部		
	今西章	一年六組	担任 数学
	文化図書部		
	大井幸代	二年五組	副担任 数学
	二年学年主任、生徒指導部、進路指導部、同和教育部		
	岡本雅至	三年三組	担任 国語
	同和教育部、庶務部		
	北野貴之	二年五組	担任 英語
	生徒指導部		
	木村朋子	一年四組	担任 英語
	同和教育部		
	黒田純弘	二年六組	担任 理科
	同和教育部		
	小南昌紀	一年五組	副担任 社会
	一年学年主任、教務部、生徒指導部、進路指導部、同和教育部、庶務部		
	阪上哲也	三年二組	担任 保健
	保健体育部、生徒指導部		

教諭	阪本雅	一年一組	副担任 国語
	教務部長		
	清水武司	二年二組	副担任 保健
	保健体育部長		
	神讓	二年四組	副担任 理科
	同和教育部長		
	杉本憲則	三年五組	担任 英語
	進路指導部		
	谷幸三	一年六組	副担任 理科
	文化図書部長		
	長岡義樹	一年五組	担任 国語
	文化図書部		
	中嶋淳行	二年六組	副担任 数学
	進路指導部、教務部		
	中谷くみこ	一年三組	副担任 英語
	文化図書部		
	中野和昭	一年四組	副担任 社会
	庶務部長		
	中森恭子	三年二組	副担任 国語
	文化図書部		
	原田裕	一年一組	担任 英語
	教務部		
	藤原眞	二年三組	担任 社会
	環境整備部		
	古田生美子	二年四組	担任 国語
	生徒指導部		

教 諭

堀内 秀規 三年一組 担任 英語

前川 佳以 一年三組 担任 数学
庶務部

松岡 孝子 二年二組 担任 英語
環境整備部

松田 真三 三年六組 副担任 保体
環境整備部長、保健体育部

三上 奈津子 一年二組 担任 国語
庶務部

宮坂 正孝 三年四組 副担任 数学
進路指導部長

宮本 靖彦 一年二組 副担任 保体
生徒指導部長、保健体育部

安井 孝至 三年四組 担任 社会
進路指導部

安川 康男 二年一組 担任 保体
保健体育部、生徒指導部

和田 忠則 三年六組 担任 理科
教務部

和田 晴夫 三年五組 副担任 数学
三年学年主任、生徒指導部、進路指導部、同和教育部

家村 哲也 二年三組 副担任 英語
教務部

佐藤 由 二年一組 副担任 社会
教務部

常勤講師 三木 一世 三年一組 副担任 理科
進路指導部

臨時講師 河合 知子 三年二組 副担任 国語
文化図書部

養護教諭 更谷 富美子
生徒指導部、保健体育部

実習助手 大久保 里美
庶務部

臨時実習助手 林 成美
庶務部

主 査 福島 尚文

主 事 森家 紀子

臨時事務 橋本 美登志

団体職員 木佐貫 初江

非常勤講師 植野 真奈美 音楽

奥田 史恵 家庭

北口 美恵子 家庭

田中 愛一郎 美術

松村 律子 国語

山元 善吉 社会

森田 明美 茶道

山村 澄江 華道

校誌 「躑躅」についで

本校の校章は、学校周辺の登美の丘に咲くコバノミツバツツジをデザイン化したものである。

このコバノミツバツツジは、つつじ科の植物で、枝の先に輪生する三葉を本校校訓である「誠実」・「勤勉」・「剛健」を表わしている。

花は生気の満ちる夏を告げるかのように、早春の山々に紫色の花が咲き乱れ、その香りを漂わせている。

こゝに新設校の清新な意気を表わし、本校が永久に美しい花を咲かせることを願い、ここに本校の校誌を「躑躅」と名付けたものである。

題字 学校長 亀井 敦宥
カット 養護教諭 更谷富美子

編集後記

登美の丘の緑が一段と鮮やかさを増すこの佳き日、奈良県立登美ヶ丘高校の落成式を迎え、その校誌、「躑躅」創刊号発行の運びとなりましたことは、関係者一同誠に喜ばしいことであります。

さて、昭和六十二年の開校以来、九か月過ごした奈良市船橋町の旧小学校教員養成所での仮校舎時代。本校舎への移転。第一、第二、第三期工事と関係各位のご協力、ご努力によりこのすばらしい校舎が完成し、感激しております。

ところで、この「躑躅」を我々編集委員一同全力で編集しました。しかし残念ながら、無から有への創造の喜びや、苦難の三年間の足どりをこの校誌にすべて語り尽すことはできませんでした。せめて創草三年間の基礎創りの一端を知っていただけたら幸甚に思います。

校誌編集を機に、本校がますます充実、発展し、良き伝統が築かれんことを切望します。

最後に、本校建設に関係くださいました方々に感謝申し上げます。また、校誌発行にご協力くださいました方々、生嶋印刷様にお礼申し上げ、編集後記とさせていただきます。

校誌編集委員一同

校誌「躑躅」創刊号

平成元年五月二十五日 印刷

平成元年六月五日 発行

編集 奈良県立登美ヶ丘高等学校

発行 奈良市二名町

印刷 生嶋印刷

奈良市大宮町二丁目五―二八
電話〇七四二(三三)五一九三番

